

# 寿都町対話の場(第14回)

日時: 2022年12月19日(月) 18:30~20:30

場所: 寿都町総合文化センターウィズコム

次第: (1) 開会・事務局・報告

(2) 将来の町の在り姿について自由討論  
(前回の続き)

(3) 文献調査の進捗状況 (ほか)

## ① どんなまちにしたいか

若年層を  
呼び込む

既存産業  
の振興

関連施設  
の誘致

概要調査  
に向けて

## ② こんなまちだったらいいな

若年層を  
呼び込む

交流

生活(しずい)  
移住)

企業支援

医療福祉

姉妹都市  
の提携のある  
町

町民に優しい町  
(例) 電気代を無料  
にするなど町民の  
金銭的負担がない

誘致した企業には  
(・電気料金無料  
・税優遇 など  
特典を与える

福祉関係者等  
の雇用確保  
→町に呼び寄せて  
いくべき

大都市との  
交流が  
さかんな町

(⇒) 黒松内  
お試し(3ヶ月(特約者  
入居(町営) (住宅)  
・永住

海外との交流の  
ある町  
(例えば北海道に  
地形が似ているユージック

永住につながり  
補助が有ると良い

## ② こんなまちだったらいいな

若年層を  
呼び込む

魅力

施設の充実  
設備)

働き方

スローライフ

→ 町民に新しい生活リズム  
魅力ある町で定着

女性に魅力に思え  
る町

若者が魅力と思う  
町  
→ 美しい自然、休日確保  
子育て環境の充実、雇用  
レジャー

レジャーの充実  
→ ウォーター  
パーク、  
スキー場、  
温泉、  
自然公園

町職員の兼業制限  
解除(副業認め)  
→ 新しい収入が  
発生する可能性

雇用

衣食住教育  
レジャーの充実

住民サービス

子育てをしやすい  
町(働き方、住居)

安定した雇用が  
医療費控除  
生み出した町

若者が帰郷を  
思わせた町

住んで満足できる町  
→ 子育て、教育、  
レジャー、自然環境  
が充実している

# 既存産業の振興

農業・水産業

自給率が高まると良い (アスパラ等と地産地消の中心!)

持続可能な子孫  
→ 産業、雇用  
→ 漁業、木材加工、加工  
→ 基本的な産業基盤が不可欠

農業従事者を増やす

農業後継者を育成すべき

遊休地を利用した付加価値の高い食材

空き地を利用した地産地消を目指す  
検も地元へ戻るべき

水耕栽培への取組  
例) レタス

農作物のブランドイメージを伴わせる (高級感)

農業に力を入れたべき

農業を継続するには「お金」が掛かり過ぎる

農家への補助があれば、より農業が進展する (漁業も)

漁業と農業が並立する町

## ② こんなまちだったらいいな

### 既存産業の振興

農業・水産業

産地〜販売までのバリエーションの構成

皆が実施していない作物・食物に投資 (個人の事業主〜希望をフォロー)

見た目 < 味(価値) 重視した戦略

鮭、こぶ、ホタテ  
という事業基盤を支える種類が安定的に獲れる土壌

ホタテなど資源保全の考えが根付いている (道東)

### 観光

伝説を利用した観光資源の創出

古民家と<sup>ウリ</sup>集客、誘引、活用

古い建屋を大七刀のちり田 (転用) (有)

古民家利用にあたりは役場南与(信頼) (有)

三色の温泉の (源泉が3つ) あり町

既存産業  
の振興

施設  
設備の充実

宿泊施設が  
足りない  
→ 観光客の増加  
に対応

既存資源  
の利活用

温泉の排水で  
土地の温度を上げ  
農業に適した土地へ  
の变换

公設民営の宿泊  
施設  
→ 観光客の増加  
に対応

バイオマスの町

空地、空家バンクの  
充実  
→ 町が不動産事業を  
展開

関連施設  
の誘致

# 概要調査 に向けて

概要調査に仮に進んだ  
場合、どのような雇用  
が生まれるのか。具体的仮  
→若者の雇用口  
ITターの増加

「まちづくり」のイメージは  
・概要調査までか？  
・最終処分場  
建設までか？

概要調査以降の  
「まちづくり」については  
対話の場をバリエーション  
広く町民も参加して  
話し合うべきではないか。

実際に現地を視察した  
寿都の高校生から  
町民の方に説明してもらう  
最終処分場の理解が  
深まるのではないか。

例えば  
勉強会メンバーと  
高校生との交流会